

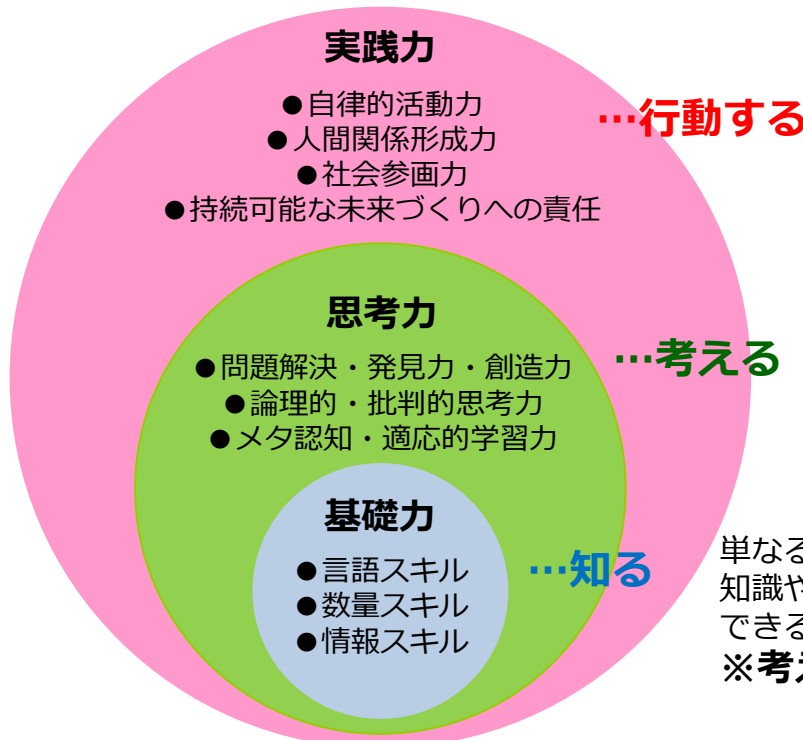
基礎を固める

「今学校で勉強していることが、将来何の役に立つの？難しい数学の公式とか今後の人生で必要なの？」と、きっと誰でも思うのです。私にもそんな時期がありました。でも人生の半分を過ぎてみて、高校1年生までに習う基本的なことは、生きていくうえであらゆる物事の基礎になるということがわかります。大きな学校行事もほとんど終わった今から3月までの時期で、これまで学んだことをしっかり復習し、各科目の基本的なことをきちんと頭に入れるように心がけてください。

**得た知識を材料にして考え、行動し、
そこで得た新たな知識を材料にまた考える
(仕事の流れも人生もこの繰り返し)**

※以下のような力を身につけるべきとされています。

●社会を生き抜く力 = 21世紀型能力 (国立教育政策研究所2013より)



日常生活や社会・環境の中に問題を見つけ出し、自分の能力を総動員して解決していく = 生きる力

「基礎力」をもとに、自ら問題を発見・解決したり、新しいアイデアを創造したりする能力のこと。さらに、問題に論理的・批判的思考をもって取り組み、自分の考えを持って他者と話し合うこと。

単なる「読み・書き・計算」だけではなく、知識や技能に加えて情報を使いこなすことができる能力のこと。

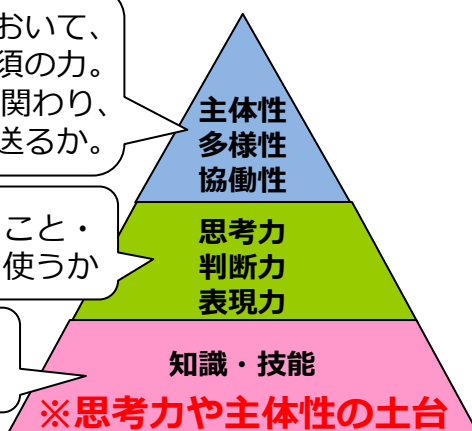
※考え、行動するための基本

●新しい学力の3要素

変化の激しい時代において、課題解決に必須の力。どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか。

理解していること・できることをどう使うか

何を知っているか。何が出来るか。



ちよつと聞いた話

鹿児島県内の企業で、今年の春採用した大卒の新入社員の一人に、就業前に「計算ドリル」をさせている会社があります。仕事を教えてもなかなかうまくやれず、なぜだろうといろいろと調べたら、「小数点計算と分数計算ができない」ことに理由があると判明したからだそうです。基礎的な知識や考え方が身につけていないと、こんなふうの後で苦労することになるかもしれません。